

農業で儲かる会社を作る

ダイセンアグリ(株)代表取締役社長

山路 則幸さん (上米島)

なぜ農業を選択？

親会社は大鉄産業(本大阪府市)という鉄鉄(たて)商社です。商社の立場から見ると、農産物販売で収益が上がりにくい理由の一つは「自分の商品の値段を自分で決めることができない」ことだと考えています。農業新規参入企業の80%が「こんな筈ではなかった」と、撤退しているのもその為でしょう。当社は農業の6次産業化に取り組んでいきます。

現在の生産規模や生産品目は？

露地栽培の生姜200a、水耕栽培10a、養蜂業、そして今年度から養液栽培20aを本格



熱く語る山路社長

的に始めています。水耕栽培では、レタス・サラダ菜・チンゲン菜・ミニ白菜・空芯菜を、産直とスーパーに販売しています。また、水耕栽培による山葵の生産研究も現在進行中です。養蜂業は、メロンの受粉目的で勉強したことがきっかけで事業として取り組み始め、収穫した蜂蜜は産直や通信販売にて多くのお客様からリピート注文をいただけるまでになりました。

養液栽培は上米島リースハウスで、アールスメロンとトマトを生産します。トマトは、アンジェレ(ミニトマト)とサンマルツァーノ(調理用中玉トマト)を生産し、今年度は売上200万円以上を目指します。

これからの目標は？

私の使命は農業で儲かる会社を作ることです。目標は売上1億円、経常利益1500万円です。生産品目を増やすので増員も必要になります。現在は、正社員4名とパート1名ですが、その頃には正社員6名とパート3名になっていると思います。

設立時の目標は、できるだけ飯南町の人を採用すること、特に若い世代が地元に残ることに役立ちたいと考えています。

将来は施設園芸の設計ノウハウ(ハード)と農作物の生産ノウハウ(ソフト)を、合わせて提案・販売できる企業になりたいと思っています。園芸分野の技術改善を行い、日本の食糧自給率も中山間地域の少子高齢化問題も人口の一極集中も少しずつでも改善できる助けになれば嬉しいです。



今月の表紙写真



鉄鉄商社とは、高炉や電気炉などで鉄鉱石を還元して鉄を取り出すという大掛かりな設備が必要な会社。「鉄から畑へ」と、文字通り畑違いの農業に着目したのは「永続的な需要が見込め、かつ技術改善の余地があり、伸びしろもある」と洞察した結果だといえます。そして、頓原の「しょうがの里」の永田光廣さんとの関りが礎となってダイセンアグリ(株)の根幹が誕生したそうです。新しい風を運んで来た会社を育てましょう。

編集後記

梅雨末期になり前線が停滞し、豪雨による土砂災害や浸水被害が各地で発生しています。

熱海市では土石流で2人死亡、約20人が安否不明(7月4日報道)となっています。市は警戒レベル4(避難指示)の発令をしませんでした。似たような事案は他の自治体でも時折みられます。

難しい判断を迫られますが、日頃から住民と防災意識の共有を進めていく自治体ほど、躊躇せず発令できるのではないのでしょうか。

本町では、7月から防災危機管理室が新設され、防災への取組みを一層強化します。消防や防災士の皆さんと有機的な連携が進み、防災を念頭においたまちづくり、住民ネットワーク作りの進展を見守っていききたいと思います。

さて6月議会も終わり、いよいよ飯南町議会も改選を迎えます。

この4年間、市民の安心・安全を守るため、議員一同切磋琢磨し活動して参りました。その活動を分かり易く、親しみ易い紙面としてお伝え出来るよう、議会広報編集委員一同努力して参りました。皆様に温かく見守っていただきまして誠にありがとうございました。

議会広報編集委員長 安部 丘